

News Release

2024年12月9日
福島ユナイテッドFC
東日本電信電話株式会社 福島支店

「福島ユナイテッドFC」と「電電ありの実会」による青葉学園クリスマス会への参加 およびプレゼント寄贈について

～NTT 東日本社員×福島ユナイテッドFC 選手・スタッフが青葉学園園児とクリスマス会で交流！～

NTTふくしまボランティアグループ「電電ありの実会(会長 大橋真孝)」と福島ユナイテッドFC(代表取締役社長 鈴木勇人)は、社会福祉法人「青葉学園」(施設長 黒沢 俊之助)において開催されるクリスマス会へ参加し、下記によりクリスマスプレゼントやお菓子等を寄贈いたします。

青葉学園との恒例行事となったこのイベントでは、今年も福島ユナイテッドFCチームスタッフによるボールを使ったゲーム等のアトラクションを実施し、園の皆さまとの交流を深めることにしています。

本取り組みは、これまでの「電電ありの実会」の活動に福島ユナイテッドFCが賛同し、「地域のより良い暮らしづくり・繋がりづくりをはじめ、社会貢献活動により一層力を入れて取り組んでいく」という考えから昨年に続き今年も実施するものです。

さらに、今年も福島ユナイテッドFCから今シーズン活躍した選手も参加していただく予定です。

記

1. 開催日時

2024年12月12日(木) 16:00～

2. 会場

社会福祉法人「青葉学園」(〒960-2152 福島県福島市土船新林24番地)

3. クリスマス会参加者

【青葉学園】

学園生、および施設長・職員 20名

【福島ユナイテッド】

選手・スタッフ:小峯 拓也 様(パートナー連携部) 他 3名

【NTT東日本 福島支店】

大橋 真孝 福島支店長 他 社員18名

4. クリスマス会開催概要

別紙1のとおり

5. プレゼント寄贈について

- (1)クリスマスプレゼント ※事前に希望の品をお聞きしています
- (2)お菓子詰め合わせ
- (3)お正月用のお年玉
- (4)子供用衣料品・タオル類 ※NTT東日本社員からの提供
- (5)福島ユナイテッドFCオフィシャルグッズ(ボール・Tシャツ) ※福島ユナイテッドFCからの提供

6. 贈呈者

- ・電電ありの実会 会長 大橋 真孝(NTT東日本 福島支店長)
- ・福島ユナイテッドFC 選手

7. 今後について

電電ありの実会では今後も引き続き青葉学園を支援してまいります。また、NTT東日本グループ社員は地域で行われる各種イベントやボランティア活動に積極的に参加してまいります。

別紙1

<クリスマス会開催概要>

- | | |
|--|-------------|
| (1) 開会のことば | 16:00 |
| (2) 「電電ありの実会」会長あいさつ (NTT 東日本福島支店長 大橋 <small>なまたか</small> 真孝) | 16:00～16:05 |
| (3) 電電ありの実会のメンバーと遊ぼう! | 16:05～16:15 |
| (4) 福島ユナイテッド FC のメンバーとボールで遊ぼう! | 16:15～16:45 |
| (5) 園児へお菓子のプレゼント | 16:45～16:50 |
| (6) 学園各ホームへクリスマスプレゼント ～「電電ありの実会」会長より | 16:50～16:55 |
| (7) 福島ユナイテッドFCからプレゼント ～選手より～ | 16:55～17:00 |
| (8) 園児へお年玉のプレゼント ～「電電ありの実会」副会長より～ | 17:00～17:05 |
| (9) 青葉学園 施設長あいさつ (施設長 黒沢 俊之助 様) | 17:05～17:10 |
| (10) 閉会のことば | 17:10～17:15 |
| (11) 記念撮影・後片付け | 17:15～ |

<参考>

「NTTふくしまボランティアグループ 電電ありの実会」とは

吾妻山の麓、福島市土船に青葉学園という養護施設があります。青葉学園は「児童は家庭的な環境の中で養育されるべきである」という創立当初の理念を継承し、入所児童の養護と自立支援を目的としている児童養護施設で、小学生から高校生までの36名(2023年12月現在)が生活しています。

1946年(昭和21年)、戦災孤児の収容施設として茂庭村(当時)に創設され、現在地には1953年(昭和28年)に移転しました。当時は、加入区域外のためなかなか電話が設置されず、子どもたちが急病の時など本当に困っていましたが、1961年(昭和36年)2月16日に待望の電話が開通しました。

開通工事は、福島電報電話局(当時)の職員の手で行われ、吾妻おろしの猛吹雪の中、23本の建柱工程を僅か3日間で完成しました。長い間待っていた電話なので、工事中は年上の園児も何かと電話局職員に気がつかうなど、微笑ましい交歓がありました。

これがきっかけとなり電話開通の記念に学園に日用品・衣類を贈ったのが青葉学園園児との付き合いの始まりです。5月の節句に鯉のぼりを贈り、クリスマスにはプレゼントを贈るなどしているうちに、これを善意の会として組織することとなり、1962年(昭和37年)10月の電電記念日に当時の水尾安彦通信局長から善行表彰されたのを機会に「電電ありの実会」が結成されました。

「ありの実」とは“梨の実”のことで、青葉学園は福島名産の梨畑に囲まれ、秋には甘い香りがして、ほのぼのとした愛情につつまれているような環境にあることから、この名前を付けたとされています。結成当時の会員は415名でした。1963年(昭和38年)6月、青葉学園の創立記念日に会員はじめ局内の絵画サークル「画楽多クラブ」や関係者の働きかけによって、貨車兼用の自動車「たんぽぽ号」を贈呈しました。全国からも、種々の形で厚意が寄せられたと記録(当時の新聞、テレビ、ラジオで大々的に報道された)に残されています。

本活動に対しては、2006年(平成18年)9月16日の青葉学園創立60周年記念式典、及び2016年(平成28年)10月8日の青葉学園創立70周年記念式典で感謝状をいただくとともに、2007年(平成19年)11月6日には第9回福島市社会福祉大会で会長より表彰状を授与されています。

「電電ありの実会」は、先輩の意志を受け継いで着実に現在まで歩み続けてきており、年間を通して定期的に訪問・激励・寄贈を行っています。現在の会員数は約400名で、先輩の灯した善意の灯を絶やすことなく、自然に広がる形で、発展させていきたいと願っています。(2024年12月)